

以前、勤務していた中学校で進路指導主事を務めたことがある。進路の事務を正確に迅速に進めるのはもちろんのことある。それだけではなく、進路の指導をしたいと考えた。何か柱になるものはないかと考えていたところ、タイムリーな出会いがあった。

教育雑誌を眺めていた。「パーソナルポートフォリオ」という文字が目に入った。読んでみた。「これだ!」と思った。そこには、横浜国立大学附属中学校での実践が紹介されていた。もっと知りたい、もっと詳しく話を聞きたいという衝動を抑えることもなく、しばらくすると、横浜へと向かっていた。

横浜国立大学附属中学校の先生が、丁寧に対応してくださった。問題は、この内容をいかに先生方に伝えるか、どのようにして生徒におろすかである。そのためには、パーソナルポートフォリオの現物を見せるのが一番である。だが、ない。

そこで、横浜国立大学附属中学校の先生に、短期間でいいので、お貸し願えないかと、おそろおそろ聞いてみた。すると、何と1年間貸していただけるというではないか。ありがたいこと、この上なかった。これで見通しが立った。意気揚々と帰りの新幹線に乗ったのは言うまでもない。

早速、先生方に説明した。とは言っても、やったことがないため、いいともよくないとも反応しよがなかったのだと思う。続けて、生徒に説明した。生徒も経験がないため、とりあえず、こちらの指示に従うしかなかったように思う。

パーソナルポートフォリオには、「元ポートフォリオ」と「凝縮ポートフォリオ」そして「勝負ポートフォリオ」と段階がある。まずは、元ポートフォリオとして、40ポケットのクリアファイルを準備した。時期は3年生のスタート時である。そこに入れるのは、1・2年生での賞状、大会記録、体力テストの結果、授業などでのワークシートやノート、読書記録など、自分ががんばった記録、行事の際に書いた作文などである。とりあえず、どんどんファイルに入れていく。

次は、凝縮ポートフォリオとして、元ポートフォリオの中から、自分にとって大切なものを選んで入れていく。この凝縮ポートフォリオは、卒業アルバムや卒業文集のような存在となる。そこには、中学時代に努力した、がんばった“証”が入っている。最後の勝負ポートフォリオは、文章で書くようになる。これは、高校入試にもつながる。

2年生の終わり頃に、とりあえずいろいろなものを捨てないで取っておいてという指示だけ出しておいた。そして、3先生になってから始めたが、本来は、1年生のときから計画的に取り組んでいくのがよい。横浜国立大学附属中学校の見本、モデルがなければ、スムーズには進めることができなかつたかもしれない。感謝である。

1年が経過し、借りていたものを丁寧に横浜国立大学附属中学校にお返しした。このときの3年生が作成したパーソナルポートフォリオは、次の年の1年生の見本、モデルとなった。そのまま、彼らが20歳になるまで借りていた。さすがに成人式を迎え、宝物をお返ししないといけないと考えた。それで、一人一人に礼状を添えてお返しした。

あのときの生徒に聞いてみたい。「あなたにとって、パーソナルポートフォリオは、どんな存在ですか」